

2022年度 第2回町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会議事録

〔日時〕 2023年3月29日（水）18：30～20：00

〔場所〕 町田市役所 市庁舎3階 会議室3-1

〔出席委員〕 ※敬称略

長田（久）、今井、西口、五十子、長田（哲）、新居田、西嶋、齋藤、渡辺、叶内、中村、小澤、長谷川、佐々木、松山

－15名

〔事務局〕

いきいき生活部長 岡林、いきいき総務課長 田野倉、保険年金課長 武藤、高齢者福祉課長 江成、高齢者福祉課地域支援担当課長 青木、介護保険課長 黒澤、介護保険課担当課長 菊地原、介護保険課担当課長 古川、大島、犬塚、岡、近藤、皆川、氏家、西山、小山、島田、田中、星野、井上

－20名

〔会議の公開・非公開の別〕 公開

〔傍聴人〕 1名

〔次第〕

- 1 開会挨拶
- 2 改選委員紹介
- 3 議題

（1）「町田市いきいき長寿プラン24-26」の策定に向けた各種調査の実施結果について

- 4 答申
- 5 各委員挨拶
- 6 事務局より
- 7 閉会

配付資料

- 資料1 町田市いきいき長寿プラン24-26策定に向けた各種調査の実施結果について
- 資料2-1 健康と暮らしの調査（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）－市独自項目－ 実施結果
- 資料2-2 【概要版】高齢者の福祉や介護に関する調査 －市民ニーズ調査－ 実施結果
- 資料2-3 【概要版】高齢者の福祉や介護に関する調査 －事業所調査－ 実施結果
- 資料2-4 【概要版】高齢者の福祉や介護に関する調査 －在宅介護実態調査－ 実施結果
- 資料3-1 高齢者の福祉や介護に関する調査 －市民ニーズ調査－ 報告書
- 資料3-2 高齢者の福祉や介護に関する調査 －事業所調査－ 報告書
- 資料3-3 高齢者の福祉や介護に関する調査 －在宅介護実態調査－ 報告書
- 参考資料1 町田市いきいき長寿プラン21-23（町田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画－第8期－）、2021年度進捗状況評価結果

〔内容〕

1 開会挨拶

事務局 定刻になりましたので、ただいまから「2022年度第2回町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会」を開催いたします。私は事務局を担当しております、いきいき生活部いきいき総務課長の田野倉と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず始めに、いきいき生活部長の岡林より開会のご挨拶を申し上げます。

事務局 いきいき生活部長の岡林でございます。

本日はお忙しい中、本審議会にお集まりいただきまして、心より感謝を申し上げます。

今年度は、次期計画にあたり「町田市いきいき長寿プラン24-26」の策定に向けて、各種調査を進めてまいりました。計画の策定するためには、高齢者や高齢者の家族介護者、介護事業所などの思いやニーズを知る必要があります。本日の審議会では、調査結果を皆様と共有し、次期計画に向けた基礎の醸成をしてまいりたいと思っております。

本日は、委員の皆様には忌憚のないご意見を賜り、活発な議論を重ねていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

2 改選委員紹介

事務局 続きまして、今年度中に本審議会の委員に入れ替わりがございましたので、事務局よりご紹介をさせていただきます。

- ・町田市社会福祉協議会： 馬場委員から叶内委員へ交代
- ・町田市町内会自治会連合会： 安達委員から中村委員へ交代
- ・町田市高齢者支援センター連絡会： 原口委員から新居田委員へ交代
- ・町田市民生委員児童委員協議会： 老沼委員から渡辺委員へ交代

※本日の流れの確認や資料確認等の事務連絡後、進行を長田（久）会長へ引継

3 議題

(1) 「町田市いきいき長寿プラン 24-26」の策定に向けた各種調査の実施結果について

長田 (久) 会長 お手元の次第に従いまして進めてまいります。

議題 1、「町田市いきいき長寿プラン 24-26」の策定に向けた各種調査の実施結果について、事務局より説明をお願いいたします

※事務局より資料 1、資料 2-1 について、以下のような説明があった。

▶健康と暮らしの調査結果

一般高齢者、介護予防・日常生活支援総合事業の対象者、要支援 1 から 2 の方を対象に郵送調査を実施。合計で約 7 割の回収率。女性が 56.4%、男性 43.6%。各年代でバランスよく回答あり。

■生活について

(1) 外出を控えているか：35.9%の方が「はい」と回答。前回 2019 年度の実施時から約 17 ポイント上昇。

(2) 外出を控えている理由：新型コロナウイルスが 71.0%で 2 位と大きな差。

(3) 情報取得手段：テレビが 84.6%で 1 位、新聞が 66.5%で 2 位、3 位のインターネットは 4 割以上で、前回より 8 ポイント上昇。高齢者の方の生活においても着実にデジタル化が浸透しつつある。

■高齢者へのサービスや町田市の取り組みについて

(1) 高齢者支援センターの認知度：「知っており、場所も知っている」、「知っているがどこにあるか知らない」の合計が約 75.0%。認知度は高い。

(2) 在宅療養の希望有無：「希望するし実現可能だと思う」、「希望するが実現は難しいと思う」の合計が約 75.0%。ニーズは高い。

(3) 在宅療養についての不安：「家族の負担」が 66.5%。他の選択肢より非常に高い。

■お住いの地域などについて

(1) 地域の人から役割を期待・頼りにされている実感：肯定的な回答が約 28%、逆に否定的な回答が約 62.0%。

(2) 「フレイル」を聞いたことがあるか：「ある」38.5%。高くはないが前回より 18 ポイント上昇。着実に認知度が増している。

(3) お住いの地域にある支援、(4) お住いの地域にあると良いと思う支援：どちらも「見守り・安否確認」、「庭木の選定・草取り」が 1 位、2 位で高いニーズ。(4) 3 位の「車での移送支援」が(3)では低く、ギャップあり。

(5) 無償で引き受けても良い支援、(6) 有償で引き受けても良い支援：有償よりも、無償で引き受けても良いと思う支援のほうが高い傾向。対価の有無で心理的なハードルあり。

(7) 認知症相談窓口の認知度：高齢者支援センターを相談先と認識されている方が 54.8%。

(8) 認知症に関する取組への認知度：いずれも「知らない」が 76.0%。認知度が低い結果。

(9) 物忘れが気になった時に認知症専門医を受診したいか：「受診したい」61.1%、「受診したくない」8.2%

(10) 虐待に関する相談窓口の認知度：「知らない」約7割を占める。

長田（久）会長 事務局からの説明を受け、この報告事項について質疑等のある委員は挙手をお願いいたします。長田委員お願いいたします。

長田（哲）委員 4ページ目の(3)情報を得るために使用しているものの選択肢に「インターネット」とありますが、「インターネット」と回答した方の年齢の内訳はどのような結果になりましたでしょうか。

事務局 大変申し訳ございません。クロス集計については現在集計中となっておりますので、詳細がお示しできない状況でございます。

長田（久）会長 ぜひ興味があるので、今後分析していただきますよう、よろしく申し上げます。他にいかがでしょうか。次の議題に移らせていただきたいと思います。

それでは、引き続き事務局から資料2-2を用いて、ご説明をお願いいたします。

※事務局より資料2-2について、以下のような説明があった。

▶高齢者の福祉や介護に関する調査 —市民ニーズ調査—

要介護1～5の方及び特養待機者を対象に郵送調査を実施。回収率は合計で53.2%。
概要版の資料2-2による説明。全体調査結果は資料3-1に掲載。

・回答者属性について

(1)性別：女性が60.3%、男性が37.5%。

(2)年齢：80歳～84歳、85歳～89歳で全体の5割近くを占める。

(4)同居者：高齢単身世帯、高齢夫婦のみ世帯、65歳以上の同居者のみ世帯の合計が60.0%。

(5)居住地域：バランスよく回答あり。

■生活の状況

(1)日中独居の状況：「よくある」、「たまにある」合計77.5%。要介護認定の高齢者の多くが、日中に一人で自宅にいる状況。

(2)近所付き合いの有無：「あいさつ程度」44.3%、「全く付き合いをしていない」が17.3%。近所付き合いが希薄化している状況。

(3)会・グループへの参加頻度：いずれかの頻度での参加は、町内会・自治会で5.3%、収入のある仕事は1.1%と低い一方、重点的に取り組んできた健康体操やサロンなどは14.1%と、比較的高い結果。

(4)生活や健康に関する自身の意思尊重：「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」が73.0%。約7割の方はご自身の意思が尊重されていると感じている。

(5)日常的な情報入手の媒体：テレビが72.3%、新聞が41.8%、本、雑誌が20.0%。インターネットは10.2%と一般高齢者の43.6%に比べて低い結果。

■疾病の状況・困りごとの有無について

(1)治療中の病気や後遺症のある病気の有無：「ある」90.4%。

(2)介護や子育て等、困りごとの有無：「なし」32.3%。半数以上が困りごとを抱えている。介護の負担、病気の治療などが多い。

■認知症について

(1) 認知症の診断の有無：「はい」33.7%。特養待機者に限定すると「はい」55.4%で、全体の結果と比べて約20ポイント以上高い結果。

(2) 相談窓口の認知度：「高齢者支援センター」が51.6%であり、比較的高い結果。

(3) 取り組みへの認知度：「いずれも知らない」が81.2%であり、総じて認知度が低い結果。

■在宅療養について

(1) 主な介護者：「配偶者」35.7%、「介護サービスのヘルパー」28.8%、「娘」27.8%。家族による介護の割合が高い一方、介護保険サービスを利用しながら在宅生活を継続されている方がいる。

(2) 在宅療養希望の有無：「希望するし実現可能だと思う」、「希望するが実現は難しいと思う」が74.3%。在宅療養へのニーズが高い。一般高齢者等の調査とほぼ同等。

(3) 在宅療養に関する不安：「家族の負担」62.3%、一般高齢者等とほぼ同等。

■災害時の対応について

(1) 災害時、自力避難の可否：「一人で判断はできるが避難はできない」、「一人では判断できないし、避難もできない」が81.6%。多くの方が一人では避難できない状況。

■介護保険サービスの利用について

(1) 利用状況：「通所介護」30.3%、「福祉用具貸与」24.9%、「訪問介護」11.4%。いずれも在宅療養を支えるサービス。また、特養待機者は「短期入所生活介護」の利用率が高い特徴がある。

(2) サービスの満足度（不満0～満足10）：平均6.6点。

不満な理由（自由記述）：料金や回数、事業所の人材不足に関するご意見あり。

■地域包括ケアシステムの考え方について

(1) 介護の望ましい形態：「住み慣れた自宅を中心に様々な介護サービスを利用して生活する」が60.6%。在宅療養を望む方が多い。

(2) 地域包括ケアシステム実現に重要なもの：「介護する家族への支援」45.0%、「高齢者総合相談窓口の充実」40.9%、「医療と介護の連携」38.7%。特養待機者では、「介護する家族への支援」の割合が全体に比べて高い特徴あり。

■特別養護老人ホームの待機について

(1) 入所通知が来た場合の対応：「すぐに入所する」20.2%、「希望の施設なら入所する」、「すぐには決められない」、「お断りする」の合計は35.3%。

(2) 入所先選択に重視した点：「現在、お住まいの近くに施設がある」43.9%、「信頼できる運営法人である」30.6%、「個室がある」24.9%。

(3) 特養までの望ましい移動時間：「30分以内」31.8%で最多。

長田（久）会長 ただいまの事務局の説明を受けまして、この議題について質疑等のある委員は挙手をお願いいたします。長谷川委員、お願いいたします。

長谷川委員 市民委員の長谷川です。

5、6ページ「生活の状況について」の(1)、(2)、(3)ですが、日中同居の状況や、近所付き合いの有無の部分は、コロナウイルスの影響で今回のような結果が出ているのでしょうか。前回の結果と比べて分かれば、ぜひ教えていただきたいです。

事務局 (1)日中同居の状況につきましては、2019年度に行いました前回調査と比較して、今回の結果に大きな変動はないと考えております。

(2)近所付き合いの有無については、前回調査と大きな変動はございませんが、少し数字が伸びている部分があると認識しています。

(3)会・グループへの参加頻度につきましては、新規追加項目のため、前回との比較はございません。

長田(久) 会長 他にいかがでしょうか。渡辺委員お願いします。

渡辺委員 民生委員の渡辺です。

20 ページ「特別養護老人ホームの待機について」で、待機者にも関わらず、入所の通知が来たら各自の対応としてお断りするというのは、どういう状況なのかが理解できませんでした。

事務局 いきいき総務課施設整備係の犬塚です。

お断りの理由としては、希望する施設が第一希望ではなかった場合や、すぐに入所したいわけではないが、申し込みだけはしておき、通知が来た時には、まだ入所の状況にないなどの理由でお断りするといったことが想定されます。

長田(久) 会長 他にいかがでしょうか。齋藤委員お願いいたします。

齋藤委員 ケアマネ連絡会の齋藤です。

3ページの「同居者」についてですが、「同居者」と回答された方の中には、実際には通って介護している方も中にはいると考えております。また、今回の調査では、介護している方の年齢層などは記載されておきませんが、私がケアマネジャーとして働く中で、後期高齢者にも関わらず、介護を行っているという方も中にはいらっしゃいます。

調査を行うにあたり、介護されている方の詳しい部分がより明確になるアンケートをしていただけますと、今後の支援の仕方というのは変わってくるのではないかと感じました。

事務局 ご質問ありがとうございます。

介護者、特に家族介護者に関する状況についてですが、本調査の他、このあとご報告させていただきます、在宅介護実態調査でもう少し詳しい数字がございますので、改めてご報告をさせていただければと思います。

長田(久) 会長 西嶋委員、お願いいたします。

西嶋委員 私どもの地域で災害時の対応・連携を議論する会合を以前に行った際、3.11の時に様々な介護サービスを利用している1名の方に対して、各事業所が何度も安否確認を行うといった状況があったとお伺いしました。その為、安否確認を担当する事業所をあらかじめ決め、無駄な状況が生まれないようにすることが必要というところが課題としてあがりました。一般の市民からの話では、車椅子や、介護、ケアを要するような方に対しては、専門職のスタッフなどに対応してほしいという依頼がありました。

町内会での課題と認識しておりますが、対応に限界があるため、事業所として、全体として考えるべき課題であると考えております。

長田(久) 会長 ご意見ということでありがとうございます。

時間となりましたので、次に進ませていただきたいと思います。

次に資料の2-3を用いまして、事務局の方からご説明をお願いいたします。

※事務局より資料2-3について、以下のような説明があった。

▶高齢者の福祉や介護に関する調査 —事業所調査—

市内介護保険事業所を対象に郵送調査を実施。大部分のサービス事業所を網羅。概要版の資料2-3による説明。全体調査結果は資料3-2に掲載。回収率は合計で67.5%。

サービス種別属性：「居宅介護支援」21.2%、「在宅系」59.5%、「入所系」13.9%

■事業運営について（赤字の事業所対象）

- (1) 事業所運営が赤字の理由：「利用者が少ない」25.9%、
「新型コロナウイルス感染症の影響」が14.1%。新型コロナの影響は依然高い。
- (2) 運営課題：「職員の確保」77.8%、「利用者、入所（入居）者の確保」58.9%。
介護人材不足が大きな課題。
- (3) 今後3年間の事業展開：「現状維持」54.2%、「拡大予定」26.7%、「検討中」13.6%。

■サービスの充足度について

介護事業者から見て過剰：「通所介護」14.4%、「訪問看護」9.1%、

介護事業者から見て不足：「夜間対応型訪問介護」26.4%、

「定期巡回随時対応型訪問介護看護」25.4%

「不足」、「やや不足」の合計4割超過のサービス：

「訪問介護」、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、

「看護小規模多機能型居宅介護」、「夜間対応型訪問介護」

■人材育成・確保

- (1) 職員確保の状況：「ほぼ確保できている」32.5%で最多。

一方、約半数が「確保できていない時がある」、「確保することが難しい」と回答。高齢者支援センターは「常時確保できている」「ほぼ確保できている」合計54.6%。多機能型は「確保できていない時がある」「確保することが難しい」合計83.4%。

- (2) 新規採用拡大の方策：「資格取得等に必要な受講料等の奨学金制度を設ける」30.7%、「元気高齢者（アクティブシニア）の雇用を増やす」22.2%。

(3) 離職理由：「条件の良い仕事、職場への転職」29.5%、「本人の病気」23.4%、「職場の人間関係」22.7%。一方「過去1年間に離職者はいなかった」20.4%。約8割の事業所に離職者がいたことが判明。

- (4) 職員就労継続の取り組み：「勤務日や労働時間（時間帯・総労働時間）の調整」63.2%、「業務の改善や効率化等による働きやすい職場づくり」56.2%、「職場環境の改善」44.1%。

■地域包括ケアシステムについて

- (1) 今後強化すべき取り組み：「家族介護者への支援」49.4%、「介護の人材確保・育成・定着への取り組み」47.9%、「多職種事業所間のネットワークの構築と強化」44.6%。「家族介護者への支援」は高齢者、事業者ともに強化の必要性を感じている結果。

(2) 「16のまちだアイ・ステートメント」の認知度：「内容を理解しており、日々の業務の中で活用している」、「内容を理解している」、「聞いたことはあるが、内容は分からない」合わせて約7割が認知。

(3) 医療ニーズがある方への対応課題：「かかりつけ医、病院等との緊急時の連絡体制の整備」61.5%。医療介護連携に課題を感じている事業所が約6割。

(4) 医療機関との連携の取り組み：「利用者の健康管理や処置について助言を受けている」49.4%、「特に連携していることはない」21.2%。

■介護事業所の運営に関する基準への取り組み状況

(1) 事業継続計画1 (BCP 策定)：「策定している」42.1%、「検討中」34.8%、「していない」17.6%

(2) パワーハラスメントの防止に関する研修等の実施状況：約75%が「指針を定め、研修等を実施している」、約2割が「研修を実施していない」。

(3) 高齢者虐待の防止に関する研修の実施状況：約80%が「研修を実施」。「今後も実施を予定」を含めると、約90%。

■事業所別の設問

(1) 利用希望の多いサービス：「福祉用具貸与」89.5%、「通所介護」84.2%、「訪問介護」82.1%

(2) ケアプラン作成への地域資源活用の有無：「ある」90.5%。
約9割の事業所が活用している。

長田 (久) 会長 ただいまの事務局からのご説明を受けまして、この議題について質疑のある委員は、挙手をお願いいたします。

西口委員 東京家政学院大学の西口です。

6、7 ページ「人材育成・確保について」ですが、国の介護労働安定センターの調査結果を見ても、ほぼ同じような数字が出ております。離職理由として、人間関係の数値が高くなっており、極めて抽象的ですが、法人や事業所の理念や運営方法への考え方の相違もどこの調査を見ても同じように高くなっています。資料3-2、本編の30 ページを見ると、介護施設の離職理由として、76.2%が職場の人間関係となっています。具体的に誰と誰の人間関係が悪いのか、どうすればその人間関係が調整できるのかについて切り込み、改善していかなければ、隣の八王子市にも施設がたくさんあるため、町田を離れて行ってしまいます。人間関係は極めて抽象的ですが、人間関係の問題については、さらに切り込んで実態調査をしたほうが良いと思いますが、いかがでしょうか。

事務局 いきいき総務課の田野倉です。

委員のおっしゃる通りだと私どもも感じております。やはり介護人材を一生懸命確保しても、すぐに人材が離れてしまうという状況です。人間関係の深掘りのご意見もございましたので、次期計画に向けて、人材の確保・育成・定着という中で、定着の部分をもどのように進めていくか。どう人間関係でやめないようにしていくかが今後の課題と認識しております。

長田 (久) 会長 補足の調査というのは、難しいのでしょうか。

事務局 時間的なところもございますので、難しいですが、サンプルで介護事業所への聞き取り調査等は可能だと思いますので、検討させていただきます。

西口委員 私の現場経験から、ある特定の職種間の人間関係が悪いのはどこで聞いてもありますので、切り込んでいく必要があると思います。お願いいたします。

長田 (久) 会長 ありがとうございます。

それでは引き続き資料2-4を用いて、事務局よりご説明をお願いいたします。

※事務局より資料2-4について、以下のような説明があった。

▶高齢者の福祉や介護に関する調査 —在宅介護実態調査—

要介護認定者が更新申請の際に、認定調査と同時に行った直接の聞き取り調査。回収率は100.0%。

概要版の資料2-4による説明。全体調査結果は資料3-3に掲載。

・回答者属性について

(1) 本人の年齢と性別：80～84歳、85～89歳で全体の約5割。女性64.5%、男性35.5%。

(2) 世帯類型：「単身世帯」26.3%、「夫婦のみ世帯」29.7%。

(3) 要介護度：「要介護1」29.1%、「要介護2」19.1%、「要支援1」18.3%

■家族による介護について

(1) 家族や親族による介護の頻度：約7割が「家族による介護」を受けており、そのうち「ほぼ毎日ある」が5割を超えている。

(2) 主な介護者：「子」47.0%、「配偶者」36.6%、「子の配偶者」4.5%。

(3) 主な介護者の年齢：50歳以上約9割、60歳以上63.7%。介護者も高齢者が多い。

(4) 主な介護者が行っている介護：「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」84.7%、「食事の準備（調理等）」69.8%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」67.3%。

(5) 過去1年間の介護離職の有無：約4%が過去1年間に介護を主な理由として仕事を辞めている。

(6) 主な介護者の勤務形態：「働いていない」53.0%、「働いている」43.5%で、「フルタイムで働いている」24.8%、「パートタイムで働いている」18.7%。

(7) 主な介護者の働き方の調整の有無：「特に行っていない」36.8%、一方、約7割の方が介護のために何らかの働き方の調整をしていることが分かった。

(8) 仕事と介護の両立の可否：「今後も働きながら介護を続けていける」77.2%、「続けていくのは難しい」7.3%。

(9) 主な介護者が不安に感じる介護：約7割が不安に感じることもあると回答。内容としては、「外出の付き添い、送迎等」22.6%、「認知症状への対応」21.2%、「その他家事（掃除・洗濯・買い物等）」19.6%。

■介護サービスについて

(1) 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス：

52.5%が「ある」と回答。「外出同行」、「移送サービス」がともに15.9%、「掃除・洗濯」12.5%。また「特になし」の回答が44.1%。

(2) 単身世帯における今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス：

要支援1・2 … 「買い物」20.0%

要介護1・2 … 「配食」26.0%

要介護3以上… 「買い物」、「外出同行」、「移送サービス」、「見守り、声かけ」
がそれぞれ30.0%

(3) 施設等への入所・入居の検討状況：

要支援1・2では「入所・入居は検討していない」95.2%

要介護度が高くなるにつれ、「入所・入居を検討している」の割合が高くなり、
要介護3以上で、「すでに入所・入居申込みをしている」4.0%

(4) 介護保険サービスを利用していない理由：

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」43.4%、

「本人にサービス利用の希望がない」30.3%、

「家族が介護をするため必要ない」9.7%。

(5) 介護保険サービスの利用なし理由を要介護度別に集計：

要支援1・2 … 「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」56.1%

要介護1・2 … 「本人にサービス利用の希望がない」39.4%

長田(久)会長 ただいまの事務局からの説明に対して何かご質問があれば、挙手をお願いいたします。
佐々木委員。

佐々木委員 佐々木と申します。誰が介護をしているかについてですが、在宅介護実態調査でいうと、
主な介護者で「お孫さん」を選択された方の回答者数が443人のうち0.9%となっております。また、
市民ニーズ調査では、同じく「お孫さん」と回答された方が4,840人のうち2.7%
ということで差異がありますが、かなりの数になっていると考えております。
また、ダブルケアラーやヤングケアラーの問題についてですが、これらの問題により、退職
せざるを得ない方もいらっしゃると思います。今回の調査結果から見えた問題点を、次期の
計画の中でどのように対応していくのか、具体的などころにぜひ触れていただきたいです。
以上です。

長田(久)会長 ありがとうございます。

貴重なご意見だったと思います。きめ細かい対応とか分析というのにも必要だと思います。
事務局からご説明いただけますでしょうか。

事務局 在宅介護実態調査の数字、市民ニーズ調査等の数字につきましては、次期計画に向けて、市
民の皆様の声、それから高齢者の方からの声として、これを課題と捉えて計画を策定してい
きたいと考えております。

また、計画の策定にあたり、次期計画では、取り組みの効果が見えやすい形で反映させてい
きたいと考えております。以上です。

長田(久)会長 ご意見十分受け賜るとのことだと思っております。

4 答申

長田(久)会長 本日、委員の皆様からいただきました貴重なご意見を反映することを前提といたしま
して、またその意見の反映は、私と職務代理にて確認することを前提といたしまして、本日
の議題(1)を承認することをもって、本審議会からの答申とすることによりよろしいでしょ
うか。

確定した答申につきましては、事務局を通しまして、委員の皆様へ発送させていただきます。
異議のある場合はお手を挙げていただければと思います。

よろしいでしょうか。

異議なしということで、進めさせていただきます。

5 各委員挨拶

長田（久）会長 本日は3年間の任期の最終審議会となりますので、委員の皆様から簡単にご挨拶をいただければと思います。それでは今井職務代理から順にお願いいたします。

※各委員より任期満了における挨拶があった。

長田（久）会長 委員の皆様、3年間、そして今日も貴重なご意見、ご挨拶、ありがとうございました。それではお礼を申し上げつつ、事務局のほうにお返ししたいと思います。よろしくお願いいたします。

事務局 皆様、ありがとうございました。

ここで、いきいき生活部長の岡林より、委員の皆様へ、お礼のご挨拶をさせていただきます。

事務局 皆様、この3年間、町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会にご尽力いただきまして、誠にありがとうございました。皆様の任期が始まりました2020年4月は、国内で新型コロナウイルス感染症が広がり始めて間もない頃であり、言い知れぬ不安と混乱の中で、計画策定の審議をスタートいたしました。

国中が混乱し、通常の社会生活を営むことが非常に難しい中で、無事に計画策定を行えたのは、柔軟かつ前向きにご対応いただきました、皆様のご尽力があつてのこととございました。改めて感謝申し上げます。

さて、2023年度は、次期計画の策定を本格的に進めてまいります。これまでいただきました貴重なご意見、本日もご報告いたしました、各種調査の結果から見えてくる課題や高齢者の方の声に向き合いながら策定してまいります。皆様には今後も引き続き、町田市の高齢者福祉にご関心をお寄せいただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今後の皆様のご健勝と一層のご活躍を祈念し、お礼の挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

6 事務局より

※事務局より事務連絡があった。

7 閉会

事務局 本日は限られた時間ではありましたが、活発なご意見を賜り、本当にありがとうございました。

これをもって終了といたします。どうもありがとうございました。